

2 0 1 9

アベリスツイス大学サマースクール留学事業

報 告 書

(2019. 8. 12～9. 6)

与 謝 野 町

目 次

○交流のあゆみ	
交流のあゆみ	・・・・・・・・ 1
フランク・エバンス氏と与謝野町	・・・・・・・・ 4
アベリスツイス大学と与謝野町	・・・・・・・・ 5
○アベリスツイスの紹介	・・・・・・・・ 6
○アベリスツイス大学の紹介	・・・・・・・・ 7
○研修報告書	
白須 月菜	・・・・・・・・ 8

交流のあゆみ

日 程	内 容
昭和59年11月13日 ～11月 日	フランクエバンス氏が加悦町を訪問 大江山運動公園に平和を願う慰霊碑を建立（11月20日除幕式）
昭和60年6月6日 ～6月13日	細井拓一加悦町長・西原正二議会議長アベリスツイス訪問
昭和61年12月	両町の交流を記念してアベリスツイスの木「キングサリ」を大江山運動公園に植樹
昭和62年12月	フランクエバンス氏加悦町を再度訪問し両町友好の推進を誓う
	アベリスツイス、タウンホール前に加悦町から贈った桜の木を交流の記念として植樹
平成元年3月	ウェールズ大学国際センター所長ジェフリー・ブラウン氏加悦町訪問
	ウェールズ大学アベリスツイス校への町民語学研修生派遣の道が開かれる
平成2年6月28日 ～9月12日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生2名を派遣
平成3年8月27日 ～9月20日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生2名を派遣
平成4年7月1日 ～7月10日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒2名をホームステイで12日間受け入れる
平成5年11月3日 ～11月11日	小西英雄助役を団長に町内高校生8名がアベリスツイス訪問 ホームステイで8日間滞在
平成6年8月21日 ～9月2日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒2名をホームステイで12日間受け入れる
平成7年10月28日 ～11月10日	町内高校生5名アベリスツイス訪問、ホームステイで10日間滞在、ロンドン3日間 両町の交流を深める
平成8年7月8日	民間レベルの交流を推進するため、加悦アベリスツイス友好協会が設立される
平成8年7月14日 ～7月28日	アベリスツイスペンウェディグスクールの生徒8名、教師1名を14日間受け入れる
平成9年3月30日	外務省の招聘を受け来日したアベリスツイス在住のグウィン・デービス氏とドナルド・グリフィス氏が加悦町を訪問 旧大江山ニッケル鉱山跡や大江山運動公園の平和友好の碑を見学
平成9年10月29日 ～11月12日	町内の高校生5名が、アベリスツイスを訪問し、ホームステイで滞在した ペンウェディグスクール高校生との交流やアベリスツイスの教育・歴史・文化施設などの 見学を行い、ウェールズに対する理解を深めた
平成10年10月20日 ～10月30日	アベリスツイス高校生3名、アベリスツイス加悦友好協会会長、友好協会会員の2名が11日 間の日程で加悦町を訪問し、ホームステイにより交流を深めた
平成11年2月9日 ～2月15日	加悦アベリスツイス友好協会が7日間の日程で、6名の社会人訪問団を派遣
平成11年10月28日 ～11月9日	町内高校生5名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成12年10月22日 ～11月4日	アベリスツイス高校生6名と先生1名が14日間の日程で加悦町を訪問し、ホームステイによ り交流を深めた
平成13年	アベリスツイスへの高校生訪問団派遣をアメリカ同時多発テロ事件のため中止
平成14年10月27日 ～11月8日	町内高校生5名を13日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成15年10月24日 ～11月5日	アベリスツイスの教師と高校生6名が13日間の日程で、ホームステイにより滞在ホスト ファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行った
平成16年8月	ペングライス高校の生徒1名をホームステイにより受け入れた
平成16年10月30日 ～11月11日	町内高校生6名を13日間の日程でアベリスツイスへ派遣

交流のあゆみ

日 程	内 容
平成17年10月20日 ～11月1日	アベリスツイス高校生6名と先生1名、随員1名が13日間の日程で、ホームステイにより交流を深めた
平成18年10月27日 ～11月8日	太田貴美与謝野町長を団長に、町内高校生6名を13日間の日程でアベリスツイスへ派遣 与謝野町としての交流を記念し、町の木「椿」の苗木を植樹
平成19年10月25日 ～11月7日	アベリスツイスの教師と高校生6名が14日間の日程で、ホームステイにより滞在与謝野町 になって初めての交流で、ホストファミリー、保育所、小中学校、見学施設など 与謝野町全域に拡大し、多くの町民と交流を深めた
平成20年10月29日 ～11月9日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成21年10月21日 ～10月29日	アベリスツイス高校生6名と随員2名が9日間の日程で、ホームステイにより滞 在ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行 った
平成22年11月2日 ～11月13日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成23年10月19日 ～10月26日	アベリスツイス高校生7名と随員1名が9日間の日程で、ホームステイにより滞 在ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行 った
平成24年11月3日 ～11月14日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成25年10月25日 ～11月5日	アベリスツイス高校生5名と随員1名が12日間の日程で、ホームステイにより滞 在ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交流を行 った
平成26年7月5日 ～7月16日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣 新たな交流を目指し産業・大学研究施設を視察するとともに、地方政府や大学関係者と 意見交換
平成27年2月23日	与謝野町・アベリスツイス大学間の包括協定を締結
平成27年7月24日 ～8月9日	与謝野町民3名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成27年8月24日 ～9月4日	与謝野町民1名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成27年11月9日 ～11月10日	アベリスツイス大学職員2名が与謝野町を視察
平成28年1月21日 ～1月30日	アベリスツイス大学から8名の学生と随員教員1名が10日間の日程で、学生はホーム ステイにより滞 在ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交 流、織物事業所や染色体験など町の基幹産業を見学し最終日には報告会を開催した
平成28年8月1日 ～8月12日	与謝野町民1名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成28年8月15日 ～9月9日	与謝野町民2名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成28年10月23日 ～11月3日	町内高校生6名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成29年1月26日 ～2月4日	アベリスツイス大学から8名の学生と随員教員1名が10日間の日程で、学生はホーム ステイにより滞 在ホストファミリー、高校生、町内の園児、小中学生をはじめとして町民との交 流、織物事業所や染色体験など町の基幹産業を見学し最終日には報告会を開催した
平成30年1月26日 ～2月5日	アベリスツイス大学から5名の学生と随員教員1名が11日間の日程で、学生はホーム ステイにより滞 在ホストファミリー、町内の園児、小学生をはじめとして町民との交流、染色体 験など町の基幹産業を見学し最終日には報告会を開催した
平成30年2月16日 ～2月25日	アベリスツイス高校生6名と随員2名が10日間の日程で、ホームステイにより滞 在ホストファミリー、高校生、町内の園児、小学生をはじめとして町民との交流を行 った
平成30年7月30日 ～8月10日	与謝野町民1名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加

交流のあゆみ

日 程	内 容
平成30年11月5日 ～11月16日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生5名を12日間の日程でアベリスツイスへ派遣 アベリスツイス大学との包括連携協定調印式を行うとともに、今後の交流の継続のため現地の行政関係者と懇談
令和元年8月12日 ～9月6日	与謝野町民1名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
令和元年10月25日 ～11月2日	アベリスツイス高校生3名と随行2名が9日間の日程で、ホームステイにより滞在ホストファミリー、高校生、中学生、小学生、町内の園児をはじめとして町民との交流を行った

フランク・エバンス氏と与謝野町

—フランク・エバンス (Frank Evans) —

1917年5月23日、Cribyn Lampeter (ウェールズ) に生まれ、第2次世界大戦中、軍人として香港で兵役に就いていた1941年、日本軍の捕虜となり、1943年に日本に送られ、鉱山での労働を強いられました。1945年、終戦と同時に帰国、40年が過ぎた1981年、香港を訪れた帰国時の飛行機内で日本人女性鬼頭さんと知り合い、鬼頭さんの力を借りながら、ついに京都大江山のニッケル鉱山跡にたどりつく。

晩年は、旧加悦町とアベリスツイスの交流推進に力を注ぎ、多くの人から愛され親しまれました。



1996年11月6日逝去。享年79歳。

—メッセージ—

著書「ROOL CALL AT OEYAMA」大江山の点呼

Sakura Peace Message By Frank Evans

(桜の平和メッセージ フランク・エバンス)

Consider our blossoms which are beautiful in life and death. Never again let us and human beings die in an ugly holocaust but, Instead, allow us all to live and die naturally in perfect peace for ever more.

(咲いているときも、散った後も美しい桜。二度と再び人間が、無残に命を失うことのないように。そして全ての人間が平和の内に生をまっとうできますように。)

—交流のきっかけ—

旧加悦町とアベリスツイスの交流は、第二次世界大戦時に旧大江山ニッケル鉱山での戦争捕虜体験を持つ故フランク・エバンス氏が、鉱山で死んだ戦友の記念碑の除幕式のために、昭和59年に加悦町を訪問したのをきっかけに始まりました。故フランク・エバンス氏は、加悦町との交流の推進に取組み、友好の絆を結ぶ礎を築きました。

—高校生相互派遣交流からアベリスツイス大学との連携へ—

平成4年から、友好の架け橋として未来ある高校生の相互派遣交流を進め毎年度受け入れと派遣を行い、年々交流が深まっています。

与謝野町とアベリスツイスの高校生交流は、双方の友好協会などの交流事業関係者が参加をし、ホームステイや体験を通じてお互いの国の歴史・文化・生活・習慣などを理解することができる貴重な機会となり、両町の交流推進の大きな柱となっています。今サマースクール事業はこの高校生相互派遣交流事業がきっかけとなり実現しました。

アベリスツイス大学と与謝野町

ーアベリスツイス大学ー



アベリスツイス大学は英国ウェールズのアベリスツイスに位置する大学で、1872年にウェールズ大学アベリスツイス校として設立されました。

ー交流のきっかけー

平成26年7月に山添藤真与謝野町長が高校生相互交流派遣事業の参加者と共にアベリスツイスを訪れ、与謝野町とアベリスツイス大学の連携についてアベリスツイス大学関係者と話し合いました。アベリスツイス大学関係者は故フランク・エバンス氏がもたらした与謝野町とアベリスツイスの20年以上にも及ぶ高校生相互交流派遣事業に感銘を受け、フランク・エバンス奨学金の設立及びその他連携協定の締結を提案しました。アベリスツイス大学と与謝野町は帰国後も事務協議を続け、平成26年3月には包括協定を締結し、平成27年9月には連携事業を決定しました。



ーアベリスツイス大学サマースクール留学事業ー

英国ウェールズのアベリスツイス大学 (Aberystwyth University) で開講されるサマースクール (English and Communicative Skills Course) は、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すプログラムで、教室での少人数 (最大16人) による授業に加え、キャンパス外での社会的プログラム (Social Interest) も含まれています。与謝野町とアベリスツイス大学間で締結された協定書により、与謝野町からの参加者は授業料が15%減免となります。5年目の派遣となる令和元年度の募集は下記4コースからの選択でした。

コース	日程	受講料 (割引後)
CS2	7月15日 (月) ~ 7月26日 (金)	446 ポンド
CS3	7月29日 (月) ~ 8月9日 (金)	446 ポンド
CS4	8月12日 (月) ~ 8月23日 (金)	446 ポンド
CS5	8月27日 (火) ~ 9月6日 (金)	446 ポンド

※8月26日 (月) は英国の祝日のため授業はありません。

—アベリスツイス (Aberystwyth) —

イギリスのロンドンから西へ列車で約6時間のカーディガン湾に面した人口約12,000人の町です。

主な産業は農業(牧畜)、商業、観光業で、ウェールズ大学アベリスツイス校、国立図書館など文教施設があることから学生が多く、世界各国からの留学生も多いところです。

レンガ造りの家並みと田園、美しい海岸が印象的な美しい町で、観光地として人気が高く、夏は避暑を楽しむ多くの観光客で賑わいます。

ウェールズの歴史と文化を誇りにし、ウェールズ語を多くの人が話し、町のサインも英語とウェールズ語が併記してあります。陽気で歌の好きな親切な人々が多いです

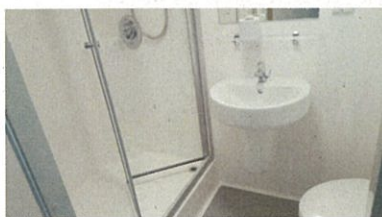


—アベリスツイス大学 (Aberystwyth University) —

アベリスツイスの町の北東部に位置します。

学部での勉強だけでなく、毎年開講しているサマースクールにも世界各国から留学生が英語を学びに来ており、他国からの留学生とも交流できます。

また、学内には学生寮、図書館、スポーツセンター、アートセンターなどが併設されています。



アベリスツイス大学サマースクール報告書

日程

8月10日～9月17日（授業期間 8月12日～9月6日）



目的

昨年度のサマースクールから自分の英語力がどの程度向上したのか確かめるため。
与謝野町と友好な関係にあるアベリストウイスについてよりよい知識を得るため。

アベリストウイスまでの移動

今年は台北とフランスを経由してバーミンガムまで行き、3時間電車に乗ってアベリストウイスまで移動。台風の影響で台北便とパリ便が遅れ、10日に現地に着くはずが1日遅れとなり11日になった。バーミンガムインターナショナル駅からアベリストウイス駅までのTransport for Walesは事前予約のほうが安い。アベリストウイス駅に着いたらタクシーでキャンパスレセプションを経由して寮に行く。



授業

・初日

キャンパスレセプションに集まり、メンバーの確認。約70人の学生がいた。今年は8割が日本人と中国人、2割がチェコ人、スペイン人、コートジボワール人、シリア人だった。全員で大教室に移動し、大学についての紹介動画をみた後、クラス分けの参考になるテストを受けた。クラスは6個あり、私は一番上のクラスに振り分けされた。

・午前の授業

午前は90分の授業が2つあり、10時半から30分間の休憩がある。先生とレベルによって授業内容は変わるが、私のクラスではスピーキングとリーディングの練習が多かったと思う。ただ英語を勉強するだけではなく、英語を使って世界の文化や歴史について議論する授業もあった。イギリス独特の表現も学ぶことができ良かった。自分から発言することが望ましいが、発言しない人も先生に当てられ、強制的に発言することになる。

・午後の授業

火曜日と木曜日だけソーシャルスタディクラスという午後の授業がある。約5つのオプションから1つ興味のあるものを選び参加する。私は、前半の2週間で、昔使われていた大学と町を一望できる丘に行った。後半はアカデミッククラスという、英語力をさらに伸ばすクラスを選択した。そこで私は「京都」をテーマにしてプレゼンテーションをみんなの前で発表した。

ショートトリップ

水曜日は3時間から4時間のショートトリップがある。ウェールズの城やキングオーサーの洞窟に行った。参加は強制ではない。

ナイトアクティビティ

週に1, 2回ナイトスポーツかインターナショナルディナーがあった。ナイトスポーツはサッカー、アメフト、バドミントン、ドッジボールなど毎回種目は異なる。インターナショナルディナーでは参加する人は必ず手料理を持っていくことが条件だった。私は昨年、調味料調達に苦勞したため、今年は日本からお好み焼き粉とお好みソースを持っていき、現地で買った食材で関西風お好み焼きを作った。留学生は国籍豊かだったため、色々な国の料理を楽しむことができた。



サタデートリップ

毎週土曜日は大都市や地方都市に無料で行くことができる。私はマンチェスターとコンウィに行った。どちらの都市もアベリストウイスからバスで 3 時間かかるため滞在時間は 6, 7 時間と決して長くはないが、基本自由行動であるため、単独行動が好きな私にとってはありがたかった。



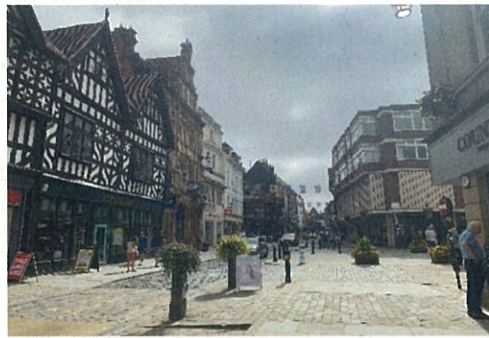
寮

サマースクールに参加する人は基本的に寮に滞在する。寮の種類は何個かあるが、私が滞在した寮は一番良い寮だった。1 フラット 8 人で、キッチンがあるリビングルームだけ共同。一人一部屋で、シャワー、洗面台、トイレがある。Wi-Fi も繋がっているため、インターネットも利用し放題。私は基本的にスーパーで買った食材を使って自炊した。コインランドリーが寮の周りにたくさんあり、自分で洗濯しに行く。洗濯機と乾燥機を使うには一回につき 4 ポンドかかる。利用する前に 10 ポンドまたは 20 ポンドのカードを買わなければならない。



土日の過ごし方

土曜日は基本的にサタデートリップがあるため暇をすることはないが、私は天気のいい日にサタデートリップには行かず、電車でシュルーズベリーに行った。日曜日は洗濯をしたり、町へ出かけたりした。



まとめ

サマースクールへの参加は今回2回目だったということもあり、先生たちは私を覚えていてくれていて、ウェルカムパーティーの時、私に近寄ってきてくれて、また出会えて嬉しいと言ってもらえたことは本当に嬉しかった。アベリストウイスは自然に囲まれていて、治安も良く、今回もとても過ごしやすかった。去年の私は、日用会話を問題なく話せたが、イギリス英語に慣れていなかったため、リスニングの面では少し苦戦することもあった。しかし、自分の英語力は一年間でかなり伸びたため、今回のサマースクールで、自分の英語が通じなかったことや、相手の英語を理解できなかったことはなかった。自分の英語力を生かし、授業での発言やディスカッションをしっかりし、自分への自信も得ることができた。また、いつも一緒にいたコートジボワール人、チェコ人、スペイン人の友達から、彼らの文化を教えてもらうことは良い勉強になった。逆に、私は日本について彼らにたくさん教えてあげた。以前、与謝野町訪問時、引率としてこられた先生と、アベリストウイスと与謝野町との歴史について話し合うことができ、与謝野町に住んでいて良かったと改めて実感した。今後も末永くアベリストウイスと与謝野町の交流が続くことを願う。

サマースクールの間中に、誕生日を迎え沢山のクラスメイトから
祝福を受け、バースデーカードももらいました



2019年アベリスツイス大学サマースクール留学事業研修報告書

令和元年11月発行

編集発行 京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1

与謝野町観光交流課

電話：0772-43-9016